

ふるさとの鼓動 北に生きる心 むすんで

こぶし

第116号

2004年8月20日発行

発行責任者：横井正人 編集：機関紙委員会
特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座 北海道函館市陣川町 122-172
TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9 年 4 回 発行
E-mail:kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp http://www.alpha-net.ne.jp/kobusiza

主な内容

- (1) 第40回矢白別平和盆踊り大会
- (2) 保育園で「ちびこぶし座」
- (3) 夏の講座開かれる
- (4) 「けいこ場でみようこぶし座」

暑い夏が過ぎ、涼しい風が吹き始めた函館ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。こぶし座会館の周りでは、ススキが目立ち始め、クワやコクワが小さいながらも、もう実をつけています。さて、今年の夏は北海道も異常な暑さでしたが、この暑さのなか、熱い交流を求めて7年ぶりに、矢白別平和盆踊り大会に参加しました。その様子をご紹介します。

今年第四十回になる記念大会には千人を超える人が集まり、大会前に行われた米海兵隊移転訓練反対「米軍の矢白別駐留反対8ヶ全道集会」と合わせる約千七百人の人が参加しました。

大会はつたこえ交流から始まり、記念集会では四十年の歩みを生み出してきた人達が構成詩と合唱やトランペットの演奏のなか紹介され、様々な困難が有りながらも、川瀬さんと共に盆踊り大会を続けてきた想いを語りました。さらに、祝賀演奏、花火大会、盆踊り、ステージ交流と続き、夜七時から始まった大会が終了したのは十二時半。その後も夜を徹して全国や海外から集まった仲間たちが熱い想いを交流しあいました。

翌日は午前中に「基地散歩」川瀬さんと語るつたこえがあり、最後に「閉会集会」と、例年になく晴天に恵まれて四十回大会は成功裡に終わりました。

私達は大会の前日から公演

部員を中心に八名で参加しました。その夜の昨夜祭では初めて参加した一人の若い部員も力一杯太鼓を叩き、激励してくれる皆さんと交流してました。大会当日は、毎年大会に参加している労働者トランペッターの松平晃さんと平和の想いを共に奏でたいと創作したトランペットと和太鼓の曲「世界に平和を」、それに沖縄の芸能を構成した命どう宝、北と南の平和の願いを込めて、などを演じ、参加者全員による北海道盆踊りでは、四十年間続けられてきた歴史をかみしめながら、檜の上で太鼓をうち鳴らしました。

ステージ交流の締めくくりは参加者と一緒ソーラン節を踊り平和を願う気持ちを一つにすることができました。

こぶし座の創立と時を同じくして始まった平和盆踊り、これからも多くの仲間をつくり育てながら、新しい歴史を共に刻んでいくようにしたい。

矢白別平和盆踊りに参加して 中尾雄児

函館から矢白別まで六七十里、盆踊り会場は落葉広葉樹に囲まれた牧草地。米海兵隊の実演習終了直後で、砲撃の音も軍用車両もなく実に静かで、陸上自衛隊最大の演習場「一万七千ヘクタール」と真ん中とはとても思えない。

だが、基地散歩で、浦さんの案内で浦さん宅まで往復約三キロを歩いた時、約四メートル幅の道の両側にロープが張られ、所々に「自衛隊演習場につき立入禁止、道路の通行は速やかに願います。別海駐屯業務隊長」の看板があつた。「主催者は国民だよ」と心で反論しながらも、不気味な圧力を感ずる。

浦さんはいま米海兵隊が常駐をねらっています。常駐になると矢白別は米軍の管理下におかれ、治外法権になるのが危険になります」と説明した。前から矢白別盆踊りでは安保条約破棄を掲げていたが海兵隊の演習が始まって、一層切実になつているのを感じた。

盆踊り会場には「教え子を再び戦場に送るな」の看板があつた。そこにいた先生は、子ども達は就職先として自衛隊に入り、軍服を着て銃を持つと軍隊の一員、戦場に送られる」と現実の問題として心配していた。

米国から来たミラーさんは「テロを口実にアフガンを爆撃した時、テロ犠牲者の家族がブッシュに抗議してアフガンを訪問しました。国民はイラクにたいする政府のやり方に怒り立上がっていますが、反戦運動に参加すると厳しく監視されます」

イラクでの戦争や自衛隊の動き、憲法九条と教育基本法の改悪の動きから、日本が再び戦争をする国になるのではと不安になる。盆踊りに参加して、みんな共通の気持ちなのに分かり、戦争反対の輪を広げてゆく勇気をもらえた。

矢白別盆踊りも四十周年を迎えていそう平和の誓として、座も来年四十周年、同時代の歴史を刻んできた集団として、民族芸能を通して平和を希求し矢白別と関わってゆきたい。

矢白別平和盆踊り

道東の別海町・浜中町・厚岸町の3町にまたがり、南北9キロ・東西13キロに広がる日本最大の陸上自衛隊の演習場、矢白別演習場のど真ん中で、1965年から毎年行われている盆踊り大会のこと。

矢白別演習場では、155ミリ自走式榴弾砲の実弾射撃訓練などが年間150~170日も実施され、1997年からは、在沖繩米海兵隊による実演習も行われるようになっていきました。

もともと、矢白別演習場は元国策の開拓地で、入植12年目の1964年に84戸から買収した農地です。

『私はここに居たい』と買収を拒否した川瀬汎二さんら2戸の農家を励まそうと始まったのが、「平和盆踊り大会」です。

「平和に生きる権利」「自衛隊は憲法違反」を訴え続ける川瀬さんに共鳴し1989年には、三重県から浦夫妻が移住しています。

一学期の学校公演の中から、函館市青柳小学校と駒場小学校の鑑賞教室担当の先生が感想文を寄せてくださいました。また、札幌市柏葉保育園の武田さんから、「ちびこぶし座」の様子を伝える手紙が送られてきました。ご紹介いたします。

民族音楽の素晴らしさ

函館市立青柳小学校
教諭 関谷正一

学校の音楽授業では、日本の伝統芸能や民族音楽を学習する機会が増えてきています。

私の勤務している学校では日本の伝統楽器がほとんどありません。音楽専科として日々の授業を行っています。何とか民族音楽を生で体験させることはできないかと考えたとき、仕事を通じて「こぶし座」と知り合つてことができました。

北海道から沖縄までの代表的な民族音楽をわかりやすく説明していただき、力強い表現力で演技してくれました。

子どもたちも「いったい何がおもしろいのか」と興奮しながら鑑賞していました。特に太鼓の音色、表現の仕方などは大変インパクトがありました。また、アイヌの踊りを通じての交流会では、当日演技で来た子どもでできなかった子どもたちが、いよいよ今日でも教室などで踊っています。

獅子舞が登場して来たとき



(アイヌ民族の踊りを踊る児童)

子どもたちの喜びは、今日でも目に焼き付いています。

私は、マーチングバンドという動きながら演奏する活動を専門としています。私自身が一番楽しみにしていた「うりすんの風 四つ竹」は、沖縄音楽の素晴らしさと独特の衣装、整った演技で大変感動しました。フォーメーションをそろえ、テーマ性を持って演技するマーチングバンドとリンクしながら鑑賞させていただきました。

今回の鑑賞教室を通じて、古き良き時代の日本や現代音楽のつながりなどを、民族歌舞団「こぶし座」さんを通じて改めて勉強させていただきました。子どもたちにとっても貴重な

な経験をすることができました。

今後とも「こぶし座」さんの活動を通じて、たくさんの方に民族音楽や伝統芸能の良さを知ってもらいたいと願っています。私自身も、また機会できるときを楽しみにしております。この度は、本当にありがとうございました。

「こぶし座のみなさんへ」

函館市駒場小学校
一年生担任
島田穂波

「本物です！いいね！」。これは公演を見た後の子どもたちの感想です。

先日は、駒場小学校で公演をしていただき、ありがとうございました。

ふだんあまり接する事のなかに日本伝統の歌や踊り、太鼓など実際に聴いて、ものすごい迫力とすばらしい演奏に感動しました。子どもたちの言う通り、まさに「本物はすごい！」その一語につきまします。

私自身、小さい頃より音楽に興味があり、ずっと今までかわりをもってきました。音楽は言葉では言い尽くせない何か不思議な力で人の心を揺り動かす、そこに魅力を感じているからかもしれません。それを

実際に見聴きしたときに何十倍にもふくらみ感動を呼びおこすのだと思います。

この度の公演では、とくに感受性豊かな子どもたちにとっても本物にふれる大変よい機会でした。心より感謝とお礼を申し上げます。

「こぶし座と出会って」

札幌市柏葉保育園
保育士 武田直美

「こぶし座との出会いは三年前、太鼓以外、民族舞踊に触れる事なかった子どもたちにとつて見るものすべてが新鮮で刺激を受けるものになりました。

初めて公演を見たその日から当園においては、獅子舞のちびこぶしやうららが出現したり、新聞紙で鉢巻きやバチを作つて太鼓や踊りが始まつたりと、うちで「ちびこぶし座」が結成されました。

その盛り上がり様は、一年目、三年目と増々高まり、一歳または0歳の子どもまで「ヤー！」とポーズをとるなど、大きいお友達と一緒に「こぶし座」を楽しんでいきました。舞踊だけではなく楽器にも魅せられた子どもがいました。

その子どもは三味線に興味を持ち、「こぶし座の方に弦は何本？」など直接聞きに行くと、そのあとすぐ保育士と共に空き箱などを活用して三味線を作り上げました。そして水戸口になるまで遊び込んだのです。そんな子どもたちの姿を見て、誕生会の行事の中でお楽しみとして二年連続「こぶし座」ついでを行いました。

「やりたい！」と参加した子ども



(しし舞)

たソーラン節や花笠音頭の鼻歌をつたつていっています。キャラクター「アヌソング」が豊富なこの時代に小節を回して口ずさむ子どもたちの姿は、とても愛おしく思えるのでした。

またこんな出来事もありません。こぶし座の公演が始まった途端、待つてましたとばかりに一斉に立ち上がる年長児。その中で小さい時から物事に積極的ではなかった子どもがいたのですが、その子どもも本当に楽しそうに笑い汁を流しながら体を動かして、その姿を見た担任は感動して涙する。そんな場面もありました。

子どもたちにとつて、「こぶし座」は心も動かす魅力と楽しさと「パー」がいっぱいの大きな存在であり、年一回、柏葉保育園での公演はなくてはならないものになりました。

私たちは、本番当日まで「次どうだったっけ？」と保育士の所に来て自主練習をしたり、「これもやるわ」と自ら演出を考えたりと毎日「こぶし座」色に染まってきました。

その染まり様は他の遊びの中にも現れ、お絵描きやブロックをしながら小節（こぶし）の効に



(ソーラン節のポーズ)

いい汗かいて 体も心もリフレッシュ

夏の太鼓・笛講座開かれる

札幌講座

7月3日～4日

会場 東区

あゆみ幼稚園

受講者

太鼓 18名
笛 8名

保育士さんたちの「札幌でもぜひ講座を」の声に応えたいと思いつけて数年間、日程や会場条件等で実現できずにきましたが、今年ようやく願いが叶いました。

実施できるのは「日のみ」といつ座の都合だけで決めた日程です。何人の人達が参加出来るのか見当もつかないまま講座の案内を持ち市内の保育園、幼稚園を回り始めたところ、その場で申し込み、すぐ職員会議で検討、父母にも呼びかけるなどあつこい間に定員を上回る受講希望の声が寄せられました。その期待に応えられるようにと準備にも気合が入ります。

(講師の指導で笛の稽古)



ます。酸欠と闘いながらの笛受講生と腕の痛みに耐えながらの太鼓受講生、最後のまごめ発表は、がんばり抜いた者同士ならではお互いを講義合つ熱い拍手とさわやかな笑顔で満ちあふれました。

民族芸能を愛する仲間の輪がまたひとつ広がった喜び、そして一人一人の実践を通してきつて生まれるあつこいつながりな出来事に思いを馳せながら「お元気でしたか?」、来年各園を訪ね受講生のみなさんとお会いできる日が今からとても楽しみです。

松岡智恵美記

第18回 函館夏の太鼓・笛講座

7月24日～25日

会場 こぶし座会館

受講者

太鼓 12名
笛 6名

今年一番の暑さの中、太鼓講座は汗でびしょり、笛講座は酸欠との闘いでした。

まごめの発表では、一息一息、心をこめて気持ちを含ませ吹く笛の音、暑さを吹き飛ばすような迫力と、チームが一体となった太鼓演奏、やり終えた後のみんなの顔がキラキラ輝いていました。

「心に響く感動を久しぶりに味わいました」「この出逢いを大切にしたいなどの感想を語り合い、座の私たちも生き生きとした参加者のみなさんから、たくさんエネルギーをもらった講座でした。

横井ひとみ記



(力強く太鼓を打つ受講生)

取材日誌(その1) 「三本柳さんさ」に魅せられて

道南の芸能のルーツでもある津軽や南部の芸能を調査・研究しようと、六月五日・六日の二日間、盛岡市を訪ね「三本柳さんさ踊り保存会」の皆さんから踊りを習ってきました。

「さんさ踊り」は、盛岡を中心とした旧南部藩領の代表的な盆踊りで、二百年の伝統を持っています。

明治の中期以後は、各部落の踊りを誰でも知っていて気軽に踊れる「大衆的盆踊り」と、白い花笠をかぶり、揃いの衣装に紋付きを着て、お盆や祭りに町に出て踊り歩いた「踊り連中(組織)」の「通り」がありました。時代の流れの中で「大衆的盆踊り」は自然消滅し、「踊り連中」の踊りが今に至っているとのよ。

現在、七十数団体に伝承されていくなかでも「三本柳さんさ踊り」は三十三種類の踊りを受け継いでいっています。

私たちは「三本柳さんさ踊り」の基本となる四種類の踊りをみっちり教えられました。保存会の皆さんの妥協を許さぬ真剣な指導のもと、一心不乱、無我夢中で踊りにのめり込み、汗を流しました。そして、明るい太鼓のリズムと伸びやかな笛の音にのって美しくしなやかに、力強く舞う保存会の皆さんの姿に、すっかり魅せられてしまいました。

「さんさ踊り」を愛してやまない保存会の皆さんの身体から、南部の厳しい風土と歴史を生き抜いてきた農民たちの息づかいと躍動が伝わってくるようで胸が熱くなりました。民族芸能ですごくいい伝統、素晴らしいの一言です。私達にとって創造の源泉とも言える、伝統を学ぶ今回の取材は、改めて北海道の歴史をより深く学び、生活にしっかりと根ざすことの大切さを再確認するものとなりました。

計良正子記



(指導する保存会の方たちと座員)

取材日誌(その2)
若い世代へ繋ぐ
木直(きなおし)大正神楽

六月に行われた南茅部町ひるめ舟祭り、今年も小学生の子どもたちが「木直大正神楽」を踊るというので楽しみに参加しました。

とした躍動感あふれる躍りに思わず目が奪われました。これが本当に小学生なのかと思っほと大人顔負けの美に素晴らしい踊りです。

終了後の保存会のみなさんの誇らしげな表情がとても印象的でした。話しを伺ってみると保存会で踊っている方の子どもも何人かいたようです。どうりで様になつていると納得しまた、大正時代から受け継がれてきたこの神楽が、親から子へ次の世代へ伝えられていることを目の当たりにして感慨深いものがありました。

地域に根ざした伝統文化に一層愛情を持ち深く学んでいくこと、気持ちを新たにしていま。

田畑 悟志 記

投げ銭と
アツい声援が舞った

「けいこ場で
みよう
こぶし座」

七月三十一日、昨年に引き続き後援会主催による「けいこ場でみようこぶし座」が行われ、二十度を超える猛暑のなか五十名もの方たちが来てくれました。

今回の公演内容は「この月初めて演じる作品や八月に行われる「矢野別平和盆踊り」に向けて創作した作品など、今まさに取り組み真っ最中のものが多かったため、公演部はみな冷や汗混じりの緊張感を隠せななものがありません。そんな私たちの全てを受け止めの応援してく

れる皆さんの暖かさが大きな声援と手拍子になり、飛び交う投げ銭となつて伝わってきました。その励ましを受けながら気持ちを支えたい切りに演じる、ことができました。

また太鼓の交流では、まず始めに制作部の一人が指名されお手本(?)で叩き笑いを誘う場面があつたり、「こぶし座サークルこんごんと公演部合同でのお囃子の演奏、合唱交流と、来て下さった皆さんと楽しくアツいあいが出来た一日となりました。

「こんごん」の演奏



編集後記

今世紀初のオリンピックが開かれている。地球規模の祭典を今一度、考えてみたい。オリンピック憲章の根本原則には、「こう記されている。『オリンピズムの目的は、人間の尊厳を保つことに重きを置く平和な社会の確立を奨励すること』を視野に入れ、あらゆる場で調和のとれた人間の発達にスポーツを役立てることにある。…まさに、「人間として平和に生き続ける」ことを希求して行われているものである。

様々な歴史の違いを持つ国に暮らす人々が、この地球上にどんな形の恒久平和を望んでいるのか?

「人間らしい人間として生きる」。そのために何が必要であり、何にこだわり努力しなければならないのか?

そもそも、誰にとっての「平和」であり、「人間らしく生きる」とは、どんな生き方なのか、だろうか?

この暑い8月の夏にこそ、『被爆』という辛く悲しく重い歴史を背負った日本に暮らす庶民のひとりとして、じっくりと考えながら観戦したいものである。

10月～12月公演予定

(8月現在)

< 学校公演 >

- 10/04 北竜町(巡回)
 - 10/05 深川市全市中学校
 - 10/06 雨竜町(巡回)
 - 10/29 東神楽町全町中学校
 - 11/01 函館市大川中学校
 - 11/30 横浜市旭小学校
 - 12/01 横浜市上川井小学校
 - 12/02 横浜市中沢小学校
 - 12/03 横浜市野庭小学校
- (巡回)...北海道巡回小劇場

< 保育園・幼稚園公演 >

- 10/21 芽室町芽室幼稚園
- 11/12 札幌市柏葉保育園

< 一般公演 >

- 10/20 芽室町
- 10/22 佐呂間町寿大学
- 11/08 名寄市
- 11/10 上川町
- 11/13 砂原町文化祭
- 11/16 本別町
- 11/17 豊頃町(予定)
- 11/20 足寄町

君の夢かなえに来ないか?

座員大募集

演技部員 スタッフ 制作部員

18歳以上の心身ともに健康な男女

- 経験は問いません -

研修期間は1年間

(生活上の援助制度があります)

日本の踊り・太鼓・祭りの大好きな人
北海道が好きで のびのび仕事をしたい人
仲間と共同して生きがいを求めたい人

NPOは
君を求めている!

まもなく開催!

バザーのお知らせ

主催 はこだて音楽鑑賞協会
こぶし座後援会

8月29日(日)午前11時より

みなさんのお出でをお待ちしております

会場 函館市高盛町22-7

はこだて音楽鑑賞協会

(問合わせ) 32-1773